

おおやまと

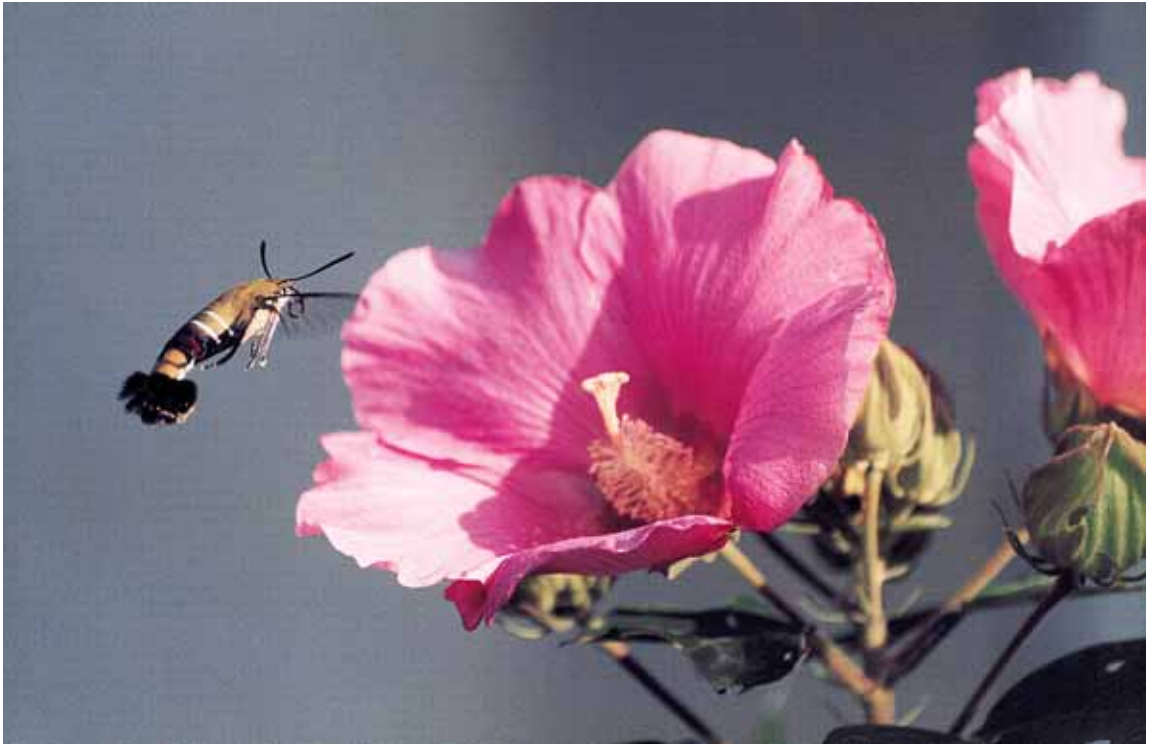
大倭出版局・大倭紫陽花邑

平成16年
8月号

毎月23日発行
通巻408号

(題字 矢追日聖)

★発行日 平成16年8月23日
★発行所 大倭出版局
〒631-0042 奈良市大倭町1の12
☎(0742)44-0015
★印刷 大倭印刷
★定価 1部 250円
年間購読料3,000円(送料共)
★振替口座 01050-6-67002
大倭出版局
URL <http://www.ohyamato.jp>



大透かし羽と芙蓉 宮崎県日南市 菊地洋一さん 撮影 (文・6頁)

昭和58年8月18日 (旧7月15日)

東光大祭・祖霊祭法話 (下)

旧拝殿にて

法主 矢追 日聖

宗教の根本

宗教という言葉を使いましたが、これは社会福祉という言葉におき換えてもいいんです。行政や制度で言う社会福祉とちがって、もっと広い意味で、日本だけでなく世界中の人間一人一人全部が、平和になるように努力することなんです。

そんなもの一億年先かもわかりませんよ。我々の望むような平和な世界というのは、そう簡単に実現しません。そんな時代はめつたに来るものじゃありませんけれど、できるだけ努力しないとイケないんです。

平和という言葉も解釈がむつかしいと思います。世界の民族が皆、仲良くするということですね。まあ、一人一人能力は違うし、もの考え方はちがうし、そんなところを統一はできません。反対者を殺すとか武力で弾圧するとか、ある程度は力で統一できるかもしれませんが、心からでなく命が惜しいから言うことを聞くという意味の平和ですから、それではいけないと思うんです。

地球上には気候や風土の厳しい場所も色々ありますが、日本のような結構な環境の国に生まれ、原爆も落とされていりゃからそれをお陰さんにして、こういうような国が一番先にほんまの平和国家になつていかなければいけませんよ。

人間一人一人がみんな仲良うなること。言葉は非常に簡単ですが、宗教の根

本はこれだと思っんです。みんな違つた条件で生活しておつて、皆が違つた個性を持っています。それが寄り集まつて、仲良うしていこうという時に、人間対人間の考え方だけではできないと思ひますね。

やつぱり隣りでカラーテレビを買えば、うちも買いたい。隣りの子がピアノを習つて、うちの子も習いたいと言えば、親としては習わしてやりたいということになる。そうすると、金がほしいということと人と競争もせんなん。世間体を気にしてええかつこしたい。あるいは人からいろんなことを言われるのはいやや。やはり名誉もほしい。そういうように一人一人が皆、違つた考え方を持つていながら、仲良うというのにはむづかしい話や。お互いを認め合うということが大事なんだけれども、それには自分というものを鍛えなくてはいけないんです。訓練すること、やつぱりある程度の知識も必要だと思います。

集まつて話し合うということも一つの方法です。それで自分を訓練して、あの人とはこの線での人とはまたそれなりの線で仲良うやつていけるとか、これは皆できるはずで。

所帯が別々になつておつても、相互扶助で助け合つたり協力していくということも、お互いの心の持ち方でできることやと思ひます。

ちょうど今日は、大倭を軸としたお祭りです。来ていますから、一つ財布で大勢の人が生活している大倭紫陽花邑というのはどういうところか、そんなことを一つ研究してほしい。経典とかを読んで頭に残るだけのようなものでは、薄っぺらなんです。身につけません。

それよりも、他人が寄り集まつて生活しておるのに、別にそう大した喧嘩もせず何で仲良うやつていけるのか、そんなところに疑問を持つてもら

わなきやいけないんです。一生懸命に働いている者もおるし、遊んでいる者もおりますわ。今日は東光大祭ですから、うちの者は総動員でやつてくれていますけれど、普段の月次祭であれば、バラバラです。まあ、私一人が神さんを拝んでいたら――月次祭は、お礼をしています――、傍の者は必要ないねんけどな。ここは神さんのお膝元やから、お祭りにはみんな揃つてお参りして手を合わせていると世間の人は思うやろけどな。ところが、月次祭に来ていられるうちの家族いたら数えるほどや。時間を費やして電車賃を払つて来てはる人もおれば、肝心の足元では、その時間にキャッチボールして遊んでる者もいます(笑)。

私はこの神さんを信仰していますと言つても喧嘩してばかりいる家庭はよくあります。そんなところをよく考えてほしいと思ひます。何も理屈はいりません。この大倭の集団の生活を見てもらつて、それを実行に移すようなとらえ方をしてもらつたら、大倭教としての宗教の教化指導は必要ありません。みんなが仲良うにさえしてらつたらそれでいいんですからね。

なんぼ知識があつても、どれだけ世間に顔が良くて、一番身近な人達が仲悪かつたら、人生は不幸やと思ひます。自分が幸せになりたかつたら、自分の周囲におるみんなも幸せでなければいけないと思ひます。

ここには福祉施設が三つあります。もうどこかに行かなくてもよい、ここで死ぬまで生活できるという重度施設ばかりです。大体二百四十人ほどに対して、職員が百人ぐらいますかね。私はその社会福祉法人の理事長や施設長をしておりますので、今日も午前中は施設に行つておりました。よその施設から研修にみえた人達に、大倭の話をしてしたり一緒にご飯を食べたりしたんです。食べる

時には、食べる時なりの雑談がありますからね。そうすると、やつぱり大倭の三十三年間の流れの伝統というものが、何かしらん、雰囲気として自然に出ていられるらしいんですね。職員は大倭の外から来ていられる人が大半ですが、行政に基づいていられる施設ですから、直接、大倭がどうこうと吹き込んだりはしておりませんけどな。

結構やなあと思ひます。だから宗教的な布教とか活動とかしなくても、人間一人一人が幸せになるようなものの考え方で、また協力の仕方、みんな仲良うにさえいけたら、それでいいんです。それが大倭の宗教の主旨なんです。それを皆さんよく理解して下さい。

心の栄養

揺すぶつたら動くような、貧弱な建物の下にはおりませんが、こういうような内容を持つた宗教人は、そうあちこちにはおらないと思ひます。これは自慢してようですけれども、私には目に見えない人達の監督が付いていますからね。

今の時代、世間の人は一にも法律、二にも法律と法律にさえ引つかからなかつたら、人を泣かそうがどうしようが案外、悪いことをやっていると思ひません。私は法律は知りませんが、私のことは霊界人が監督しております。

今日までいやというくらい、私がこの世に生まれてきたお役目というものを、体験を通して教えてくれていますので、自分とすれば間違いなく現在まで来ているつもりなんです。

宗教も色々あつて有名な宗教家もたくさんおられますが、その人達はまたそのお役目やと思ひます。私は私のお役目です。だから、私のような、同じお役目の宗教家はいらつしやらないだろう

と、これは自慢やないんです。けれども私くらい厳しく監督されている者は、そうそうはないやろなと思うんです。

霊界人は、えらい金を掛けてここに大殿堂を建てたり立派なご本尊を作っても、人間一人も救うことはできないと言っています。だから、そんなことに金を使えば、私の場合、罰が当たります。

今も、やっぱり立って話さなくてはしょうがないんですが、高い所から皆さんに先生面してものを言う気持ちじゃないんです。せつかく遠くから来てもらってやるんやから、今日は霊界人と一緒に遊ぶという東光大祭の意味をちよつとでも、心の栄養として持ち帰ってもらいたいと思うんですね。私も皆さんと共に遊ぶというつもりでものを言うております。

教えているんじゃないし教化しているんじゃないりません。私と皆さんと対々同士なんだから、私は何にも偉くないんです。私はこういうような役目を持っているというだけで、人間とすれば皆、平等なんです。

この人が偉い、この人がアカンというようなもの、神さんは作っておりません。けれども色々な種類の人間があつてこそ、世の中の調和というものができるんです。花でも桜の花もあれば菊の花もあるんです。季節によつて、また寒い所、暑い所によつて種類がたくさんあります。花一つとつてみても多色彩に自然界はできております。

神ながらの道

この宗教は、かん神ながらの宗教、ということば自然界に流れている摂理を、人間的に受け取っていく道と心得ることなんです。あるいは宇宙の大法といつてもいい、それを人生を歩んでいく一つ

の方法としていけば、神ながらの道ということなんです。

神ながらの道と言うと、軍国主義かと思う人もあるかもしれません。しかし、神ながらということとは自然の流れということ、例えば地球が回つたり春夏秋冬があつたりするような、自然を動かしている大きな法則ということですね。そこから——大きな自然界の中の人間なんですから——人間として行くべき道を汲み取っていくというのが神ながらの道なんです。

戦争なんか全然無関係なんです。日本の過去において為政者が戦争に結びつけるようなもつていき方をした場合もあつたというだけで、昔も今も、神ながらの道には変わりはないと思います。

戦後、私は神ながらの道を標榜しております。これによつて皆、仲良くいこうやと。偉い人もなければアカン人もない、花でも違つておるようにな、一人一人、能力において、趣味において、あるいは体力において相違がある者ばかりが集まつているんです。皆、寄せてきてはじめて調和がとれるんです。花が全部、牡丹だつたら、もう牡丹を見ただけでいやになりますよ。生け花でも色々とり合わせて、美というものができるんです。

人間でも、色々な種類の、色々な考えのどんな人もおつて、それで力を合わせないといけません。俺はこんな能力者や、だから偉いんやと一人だけ頭を上げたらだめなんです。何も自分個人が偉いんではない、自然の摂理が一人一人に持たせた能力なんです。これは神さんからもつた能力やから、社会のみんなが幸せになるように使わなければいけない義務があるんです。

これは法律ではありません。けれどもその義務を怠つたら、例えば病気になるとか、早いとこの世から姿を消されるとか、それが神さんの心、

宇宙の一つの摂理なんです。だから有能な人であればあるほど、その能力を社会のみんなが幸せになるように使わなければいけないんです。

例えば金儲けの能力者が金儲けすることはいいんです。しかし儲かった金を一人占めしておつたら、必ず金のために不幸になつたり命を放つたりしますよ。自分は金が儲かるような能力に生まれさせてもらつたんやから、また世間には金儲けできない宿命で生まれている人もたくさんおるんやから、そちらの方へ流してやるといふ、そういうようなもの考え方ですね。

そうすれば、みんなが何かの形で協力することができて仲良うなるんじゃないかと、これは私の考えですが、戦後三十三年間、私一人の小さな範囲内で実行してきました。世間に広くはできません、私の能力のちつぽけな、ほんまに小さな問題だけれども、今日まで自分は実行してきたと断言できるんです。

世間から見れば何でもない、微々たる話やけど、自分としては精一杯なんです。あと何年生きさせてもらうのか分かりませんが、これからもみんなと仲良うにいきたいんです。

皆さんを、私は信者とは思つていません。大倭には信者というのはおりません。みんな協力して仲良うして、みんなが幸せになつていく同じ仲間だ、同志だと思つています。だから皆さん方も、お参りしようとか、やれ神さんがありがたいやとか、そんなくだらないことを考えないで、遊びに行こうという気持ちで大倭にお出で下さい。

また自分で判断がつかないから、ちよつと相談して知恵を借りようとか、そんな身近な人間関係によつてお出でになつたら結構やと思います。どんなささいなことでも、それが自分自身の悩みになつてくる場合には、どしどし私に話して下さい

い。私のできる範囲において対応させてもらいたいと思わせてもらいたいです。

今日は夕方から、みんなが榮えていくという意味の弥栄おどりもございませう。「おどり」は「おたり おたる」という言葉から来ています。「お」は「心」、「どり」は「足る」、つまり「心が満足する」ということなんです。丁寧にものを言おうとすると、「お」をつけますね。例えばお供えとか言う。あれは、「心をつける 心から」ということなんです。

だから「おどり」は、心から満ち足りて、それを手や足で表わす形ですね。心の喜びの表現ということなんです。そういう意味でね、弥栄おどり

逍遙遊を求めて……

原田 僚太郎さんの巻

二〇〇四年五月十五日、大倭会館にて、FIWC 関東委員会中国ワークキャンプ現地駐在員である原田僚太郎さんによる、二〇〇三年度の活動報告会が開かれた。テーマは「ハンセン病がアジアをつなぐ」。これは報告会のレポートである。

僕が原田さんと初めて会ったのは、この報告会の何日か前である。交流の家で酒をすすめてくれ静かに語る姿に、嘘がないような感じがした。

二〇〇二年七月、原田さんが大学四年の時に、広東省潮州市にあるハンセン病快復村 リンホウ村の写真を見たのがきっかけで、中国でのワークキャンプを開催する事を思い立ったという。その年の十一月に第一回、翌年の二月に第二回のワークキャンプを開催する。その際、村の近くの大学にもキャンプへの参加を呼びかけた。

ワークキャンプというのは、数週間現地に住み込み、同じ釜の飯を喰い、家を建てたり、トイレ

というのを、今日の東光大祭の直会（※神事が終わった後、神酒 神饌をおろしていただく酒宴、広辞苑より）として催しております。それぞれ事情もありますから、帰らなければならない人は帰って頂いたらよろしいし、残れる方は残って、現界人も霊界人も共に踊って楽しんでもらったらよいと思います。

帰った人のご先祖さんもね、今日はゆっくり遅くまで遊んでいらつしやいますから、その点是一つご安心下さい（笑）。私は、また相手になつて遊ばして頂きます。

最後に、暑い折ですから、皆さんどうぞお体に気を付けて下さい。 柏手合掌

逍遙遊とは、何ものにも束縛されることのない
絶対的自由な人間の生活という意味（莊子より）

李 章 根

作りや道路の舗装等の生活環境改善の労働をする。共に労働する事を通じて、村人や参加者の交流を深め、ひいてはハンセン病患者への差別や偏見をなくすために、広く社会との関係を結んでゆく事になるようである。キャンプとは、国境を越え、心の壁を超え、人と人の心を結んでゆくFIWCの一つの方法論であるようだ。

原田さんは、キャンプを通じて村人と生活を共にする中で、「なんでこんないい人達なのに、家族と住めないのか、この状況をなんとかしたい」と思つたという。そして、二〇〇三年四月、大学を卒業して単身中国へ渡り、リンホウ村に駐在を始めたのだ。

中国のハンセン病の歴史について、原田さんの報告書から抜粋してみる。

「一九五〇年代以降、中国政府はハンセン病を病んだ人々の隔離を始める。彼らの逃走を防ぐた

め、隔離施設は故意に交通の便が悪い場所——人里はなれた山奥や孤島につくられた。その数は約八百。彼らの生活環境は考慮に入れられなかった。政府は一九八六年以降、MDT（多剤併用治療）による在宅治療を無償で行っている。隔離は終わった。しかし、かつて隔離された人々は治療後も、ハンセン病快復村と呼ばれる隔離施設にとどまっている。多くの快復村の家屋は老朽化し、水道はなく薪で料理する。ハンセン病の後遺症による障害を持つ上に高齢な彼らは、なぜ快復村を出て家族と助け合いながら暮らさないのでか。

差別と偏見がそれらを妨げている。

現在、そんな半隔離状態にある村が中国全土に六二五あり、そこに住む人々は四万人と言われている」（二〇〇三年中国駐在員活動報告詳細版）

原田さんは、六二五ある快復村の一つ一つに学生の支援団体をつくり、全ての村人と学生がつながり、村人と家族をつなげてほしいという。

リンホウ村は、元は三百人いたが現在では十三名。平均年齢は六十六、七歳だという。近くの韓山師範学院という大学で学生と共に、「愛心小組」という支援団体を設立。原田さんはこの村での活動を拠点に、この一年の間中国南部にあるいくつもの村を巡り、村の近くの大学にワークキャンプ参加を呼びかけて歩いた。現在では、中韓日の十一の団体や大学が、中国の三つの省にある七つの村でワークキャンプを独立的に取り組んでいるらしい。今年の八月には村の代表や各団体、大学の代表が集まり、中韓日ネットワーク構築会議が開かれるという。国連などの上からの支援ではなく、同じ釜の飯を喰い、一つ蚊帳の中で眠るところからつながりをつくっていききたいという。

「ハンセン病は世界をつなぐ」とも原田さんは言った。この事の意味を僕も問い続けてみたい。

「隆家」の頃の法主 (10)

石原莞爾氏、大倭神宮参拝

矢追 隆義

皇紀二六〇〇年（昭和十五年）を迎えるに際し文部省は国の一大記念事業として、金鷄発祥等の神武天皇に関係する地を顕彰するということが発表された。

当時、兄もこの呼びかけに呼応して、古くから当地方に伝わる鳥見の地名や、これらに関連する資料を集め、国文学者の小谷文濟氏等と関係機関への啓蒙活動に励んでいた。

ある日、兄の口から長髓彦軍と神武天皇軍との戦いが出て、地の利を知り尽くしている前者には、後者が太刀打ちできないのは無理はないと話した時、「ちよつと待つて」と小谷氏がつぶやいたそうです。瞬間、彼の脳裡に、「そうだ、今



大倭神宮に参謀と共に参拝されている石原師団長。

鷄の峯頂上より大和平野を望見し、兄より説明を受ける師団長。手前より兄、母、小谷氏。



年の第十六師団秋季大演習は大和の地で実施されては」と、常日頃より気心の通じ合っている石原莞爾第十六師団長の姿が浮かんだとのことだ。

小谷氏は早速、石原莞爾師団長の許へ参り、神武天皇と長髓彦と靈鷲の神話を、約一時間余り話された後、改めて師団長に向かい、今年度秋季大演習を二六〇〇年記念行事の一環として、大和の地において往昔を回顧して実施されるよう具申された。師団長は、すぐに参謀を呼び、先ず現地を見るということが決まった。

その結果、第十六師団が兩軍に分かれ、奈良歩兵第三十八連隊も加わり、秋季特別大演習が大和平野を中心にくり広げられたのである。

小生も自宅の前の高地に、石木方面に向け重機関銃をそなえ付け、兵隊さんのおられた光景は今でもはつきりと覚えてる。

尚、この写真は、石原師団長が幕僚を引き連れ、現地地形等、自ら下見するため大倭の地に立ち寄られた時のものである。

時の波蕩(その九)

むすぶこころの…

林 修三

私達は慕った。その方を敬い、愛し、その方の指し示した道を、ひたすら往く事を誓った。

遠い昔、古代ベナレス(※)の辺りで。時は流れ、私達の肉体は滅び去ったが、誓った心は滅びず、時を超え、この星の四方八方へと飛び立ち、その時代時代の

人々の心へと転生をした。あるいは、あの方の諭された如く、一人の道を往き、あるいは、時を変え、場所を違えて、思いもかけず、あの方の光を受けた方々の元へと集い来たった。

そしていつの時代も人の悲しみの連鎖は絶える事なく続き、この世の苦しみは終わる事はない。しかし又、私達の歩みもとどまる事はない。果てのない修行をくり返しながら、一人一人の衆生の胸に、その光と、その福音を伝え、届ける事が出来る迄、あの方と共に歩みつづける。時に過まり時に苦海の波にさらわれゆくとも、私達の行進はつづく。

光は、その名を変え、その形を変えても、常に私達の側において、私達を包み、励まし、道を指し示して下さっている。

朋友よ。この世に生まれ、私は、又、あの方と巡り会えた。

「日の聖」と共に歩まん。この世での生命果てる迄、そして、その後も。

うっしみは よしくつるとも
とこしえに むすぶこころの
かわるものかは

※インド、ガンジス川岸の町

風ま 見えない力によって

物質中、心主義の終焉を思いつつ…

宮崎県日南市 菊地 洋一



平成十四年十一月号に『アニメズムの世界』— 沖繩 龍神…の講演録が掲載されていますが、講師の野本三吉さんは昨年の『ガイア グリーンズ フェスティバル (以後GGF)』に沖繩の「みろく会」の人達と一緒に参加して下さいました。

野本さんは山尾三省さんの三つの遺言について話されておりましたが、一つ目はどの川の水も飲めるようにして欲しいということ。二つ目が原発や核爆弾の廃絶、三つ目が憲法第九条についてです。昨年のフェスティバルは三省さんの遺言をテーマにしたかのようなものでしたので、そのことについて少し述べてみたいと思います。

一つ目の水について… GGFでは水への感謝が捧げられ、富士山の湧水が平和への祈りと共に、遠くは沖繩まで届けられました。しかし、最近海外でも水俣病が起きるなど、水の汚染は地球規模で進行中です。西表島のマンガローブ林や日本の海岸はごみに覆われていますが、核燃サイクルを推進中の日本では、地震国故に地下水汚染が心配される高レベル廃棄物を、地中に埋める計画が世界に先駆け進行中です。

アメリカの原住民ホピ族は宮田雪氏の『ホピの予言』で知られていますが、昨年、国際的な水フォーラムに参加したホピの女性は放射能汚染とは別に、長距離石炭輸送に大量に地下水を使うために泉が枯渇してしまい、金で買うしかない苦しみを話してくれました。世界は今こそ「七世代後の

子孫にとつて悪い影響を与えないかが、物事を決定する時の基準である」と言うことの大切さを学ぶべきなのではないでしょうか。

沖繩の巫女 比嘉ハツさんは野本さんに「海や川は地球母神の血ですよ、血液ですよ。ここを汚しておつたらどうなりますかね、大事なことですよ」と話されていたとのこと。宮崎の海岸を清掃して悲しくなるのは海に生きる人達までもが海を汚し続けていることです。農業や化学物質、さらには放射性物質で水や空気、大地まで汚染し続けることをすぐにでもやめなければならぬと思います。GGFはそんな思いで名付けられ、自然をじかに感じ、大自然に包まれ生かされていることに感謝しながら今後どのように生きていくべきかを語り合うための一か月間でした。

二つ目の核廃絶についてですが、十年前前に野草社の石垣雅設さんが主催された野草塾で、三省さんにお会いした時に、自分も原発運動に取り組んでいたと話されていたことを思い出します。GGFは二〇〇二年の夏に静岡県袋井で「ノーニユークス」を旗印に開かれた『いのちの祭り』に参加したことがきっかけになりました。

開催時の一年間は、元GEの原発技術者だった私の、十数年間の脱原発運動を濃縮した以上のものになりましたが、北は北海道から南は台湾まで、GGFの説明会をかねて飛び回りました。

東電の情報隠蔽により原発が全部停止、浜岡原発も水素爆発や原子炉水漏洩で四基が全て停止するなど、私が十五年前から指摘していたことが続発したからです。有名な地震学者達が国際的な学会の場で、浜岡原発が危険な状態にあることを訴えました。このようなことは非常に例外的なことであつて、事態の深刻さを物語っています。

三つ目の憲法第九条はまさに風前の灯火で、昨日のテレビでも日経連の奥田会長が「憲法第九条は改正すべきである…」と発言していました。

GGF一か月間のハイライトは、八月六日に富士市文化会館の大ホールで開催された平和祈念イベント「又チドウタカラ (沖繩語で命こそ宝)」でした。広島原爆跡地で採火され分火された火が沖繩に運ばれ平和祈願の儀式が行われ、長崎、広島を経由して会場に運ばれ、厳粛な祈りで『又チドウタカラ』はスタートしました。前半は沖繩にあるフリースクール「ドリーム・プラネット」の若者達による生命力あふれる歌と踊り、後半は「全ての武器を楽器に」の喜納昌吉さんの歌と平和へのメッセージ、フィナーレはエイサーグループとも一緒に千六百人会場総立ちになり、大ステージも観客でいっぱいでした。

GGFパンフの表紙には、知らなければ何も始まらないと言うことで「知ることはとても大切です」と記しましたが、私達は劣化ウランの被害の大きさや政治のこと等々、知っているほうがよいことがまだ沢山あるようです。

「環境問題や核の廃絶、武力の放棄」は問題の根本原因を理解し、解決にむけて行動を起こすことでのみ解決に向かいます。「全ての武器を楽器に」を沖繩で実現するため、先ず国政の場に道を切り開こうと参議院議員になった喜納さん、GGFを支援して下さった「原発と日本病」の著者で元駐スイス大使の村田光平氏とテレビで浜岡の危険性に言及して下さった筑紫哲也氏は親密な関係にあります。喜納さんや比嘉ハツさんの「みろく会」と野本さん、出口三平さんや石垣さん、水俣の高倉敦子さん等々、GGFは大傑陽花邑につながる大きなエネルギーによって支えられています。

した。ただただ感謝の一念です。

G G Fでは予定外のとでも不思議なことがたくさん起こりました。朝日が昇るまで徹夜で祈り続けたメキシコ原住民のシャーマン達、アテルイとモレにつながるアイヌの山道さん達の祈り、いずれも風の如く来風の如くに去っていききました。龍神が立ち昇るのを見たと言う人達、人穴神社の洞穴に人に支えられて難儀して入った病人が、帰りにはさつさと自力で出てきたり……。参加者の山口ハルさんは今年の夏至の日にネイティブアメリカンの「せかいへいわといのりの日」を富士山麓で行う実行委員会を立ち上げ成功させました。祈りの言葉は「ミタクエ オヤシン（私につながるすべてのものに）」でした。野川温子さんは原住民のアポリジニがウラン採掘で苦しむオーストリアから北海道へ六ヶ所村へ広島へ長崎に向けての「国際平和巡礼」の大行進を実行中です。また、G G F実行委員の古長谷稔氏は浜岡原発の一〇〇万名署名に打ち込んでいます。今、多くの人達が世界の人々と手をつなぎ輪を拡げつつ決して諦めることなく行動を続けていることは、G G F Ⅱ『笑う富士山フェスティバル』の志向した、明るい未来へのイメージを日々強めてくれております。

日南海岸の幸島近くで一年がかりで撮影に成功したフヨウにスズメガの仲間であるオオスカシバの写真説明を書くつもりが、目に見えない力でつながらせて頂いた大倭紫陽花邑の皆さんに感謝の気持ちを書きたい思いの文章になってしまいました。

『沈黙の春』の著者レイチェル カーソンは、「知ることよりも感じることの方が大切なのでは……」と言っておりますが、五感以外で感じることの大切さを思いつつ終らせて頂きます。

「こだま」

紫陽花邑ホームページ「伝言板」より

<http://www.ohyanato.jp/ohmotomiya/dengon/>

今回は、「伝言板」に書き込みされた内容を、紙面の都合に合わせて、無作為に掲載させてもらったものです。どうぞご了承下さい。(編集部)

▼2004年1月19日

【はじめまして！なのですが】 Y M

実は今から20年ほど前に紫陽花邑へお邪魔した時期がありました。「青山ニチゲン（下のお名前が記憶に怪しいのですが）」様にお世話になりました。お元気にしていらつしやるのでしょうか？

▼2004年1月20日

【2004年 初便り】 S H

青山日元さんは91歳の現在もお元気で、ご自分の命（みこと）といえますか、お勤めを毎日こなしておられます。是非一度お会い下さい。お喜びになられると思います。

【本当にありがとうございます】 Y M

紫陽花邑の思い出がゆつくり蘇り不思議な気分です。必ず青山様をお訪ねいたします（私の事は忘れかも知れませんが……）。それにしても本当に不思議です。15年ほど前、インドで出会った日本人に紫陽花邑は突然青森県へ移転したと聞き、こんな地で紫陽花邑の事を知るのも不思議な御縁だなと、妙に納得していたんです。思い返せば全く不思議で、今夢から覚めたような変な気分です。

【紫陽花邑は今も奈良市にあります】 のん

青森の弘前に移転したのは「野草社」という出版社の事だと思えます。ちなみに「野草社」は現在静岡県に移転しています。

【Y Mさんにお答え】 心の人

紫陽花邑に来られたことがあるとのことですが、昭和58年くらいでしょうか。私でわかる大倭内のことでしたらお答えします。青山日元は、今年数えて91歳になります。腰は少し曲つてきましたが、大倭の月次祭の時には聖歌をいい声で歌い、神宮のお参りも毎日欠かさずに。

【Y M様へ】 のん

日元の息子で法義と言います。20年程前に紫陽花邑にこられたとの事、その頃とは随分景色は変わりましたが、人の心はその頃とひとつも変わってないと思います。お蔭様で日元は皆様によくして頂き、元気にしております。腰が曲り杖がないと歩けないですが、神様の御給仕に行く足は残してらつているようです。

【皆様、本当に感謝です】 Y M

青山様に美味しいお茶を入れて頂き、色々なお話を聞きました頃、私の名前は「Y H」でした。K市に住んでいて自己満足の写真を撮りに紫陽花邑へお邪魔したのがきっかけでした。お会いできるのを楽しみにしております。

ssssssssssssssss

▼2004年4月8日

【生まれました！】 鶴と舞ふ人

早朝、お蔭様で無事男の子が生まれました。母子共に健康です。ありがたいことです。

【誕生おめでとうございます】 のん

おめでとうございます。4月8日須佐緒祭の日にとはさすが。是非また家族4人で紫陽花邑にお越しください。待つてます。

【すきのお祭の日】 心の人

穏やかな日で、桜の花びらが道を埋めつくしています。ペビーもこの良き日に誕生され、おめでとうございます。元気にすくすく育まれることを祈ります。

あじわい日誌

7月11日 祝会。空や龍神についての話題が出ました。

夕方より教務本庁で第4回勉強会。毎回15名ほどが参加しています。昭和37年7月23日の法話テープを聴き、昭和52年2月号『おおやまと』を読み合わせました。

7月15日 大倭神宮月次祭。
7月16日 東方碑前で、花に水遣りをしようと有志が当番を決める打ち合わせ。昇ちゃんも参加して、水撒きは気に入ったのか手伝ってくれています。

7月17日 奈良パークホテルで邑交会が行われ、各事業所の報告や社会の動きについて話し合いました。

夕方、大倭会館で弥栄おどり

第281回大倭会文化行事

秋の一泊旅行のご案内

～鎌倉に栄枯盛衰の跡を訪ねる～

日時 平成16年10月31日(日)
～11月1日(月)

行き先 鎌倉・江ノ島方面
〔鶴ヶ岡八幡宮・鎌倉宮・日蓮上人辻説法故地など〕

お泊り 江ノ島 岩本楼

定員 50名程度

費用 約45,000円

※往復は新幹線を使用します。

鎌倉ではジャンボタクシーで回る予定です。

※10月10日祝会で勉強会をします。

世話人 湯浅芳郎 (電話0742-48-3389)

実行委員会の打ち合わせ。

ウクライナから一時帰国中の竹内高明さんが来邑して一泊。

交流の家で定例委員会中のF1WCの皆さんと夕食を共にし、その後大倭会館で、編集部や邑人と竹内さんを囲む集まりを持ちました。羽曳野市の浅尾恵三 なみ夫妻と高校生の子さんも来られました。

7月18日 川上村の龍神タカオカミへの挨拶と旧川上上社跡にこもる古人の諸霊の慰霊に、杉本順一 志津女夫妻、高橋良美 見田瑛子さん、溝口ツヤ子さんが行かれたそうです。

7月23日 大倭大本宮月次祭。午後4時から大倭会館で、大倭会役員会が行われました。

7月28日 東京の山本直美さんが来邑して一泊。共同体を研究していて、1970年頃の大倭

紫陽花邑の本を見て来られたとのこと。今の紫陽花邑を見て果たして何を感じられたでしょうか。次は山岸会へ行くとか。

8月1～5日 「あじわいの箱」チャリティスクールのあぢきあ句会が、大阪ガス学園前のコミユニティスペースで、3周年記念作品展をやったぜ”でした。



8月6日 奈良市の神社 教会等への呼び掛けで、広島原爆投下の時間に合わせ、反保隆臣さんが拝殿の大大鼓を打ち鳴らし慰霊しました。

大倭神宮月次祭。

8月8日 大倭墓地や境内の大掃除。大倭会では掃除祓として、またF1WCの若者も2時の飛行機で中国キャンプに出発するまでの時間を、邑人と共に汗を流してくれました。

8月9日 長崎原爆忌、この日も拝殿の大大鼓が打ち鳴らされました。

大倭安宿苑では7月31日 夏祭りが残念ながら台風のため中止されました。

(菅原園)

7月31日 夏祭り中止のため、昼食後かき水大会をしました。

(須加宮寮)

7月31日 夏祭り中止のため昼食時バイキング式で焼きそばパーティ、その後ラオケ大会をしました。

(長管根寮)

7月28日 4階フロアに朝顔やひまわりのいろ紙を飾って会場づくりをし、音楽療法のコンサートが行われました。



(八重垣園)

7月28日 俳句クラブ。「こちよく番茶の冷えた山の宿」 「月仰ぎ仮名文字まじりの日記 かく」 「朱の文字の写経吊らる星まつり」

編集後記

▼各地で水害の多い今夏……被災された皆様にお見舞い申し上げます。福井市在住の編集部員

あんない

* 月次祭(大倭神宮)

9月6日(月) 午後2時より大倭神宮にて。

* 大倭会主催第四三〇回祝会
9月12日(日) 午後2時より大倭大本宮拝殿にて。

* 月次祭(大倭神宮)

9月15日(水) 午後2時より大倭神宮にて。

* 月次祭(大倭大本宮)

9月23日(祝) 午後2時より大倭大本宮拝殿にて。

お願いとよびかけ

法主様ご帰幽満10年を記念して大倭大本宮で計画しておられる法主様奥津城の整備造成に、何卒各人の分に応じご協力をお願いします。

大倭会会長 中西 正和

1. 奈良信用金庫 学園前支店 普通0302639
□座名 大本宮特別整備基金 中西正和
2. 郵便振替口座 00900-6-241836
□座名 大倭奉賛会

齋藤正宏さんからも福井市から水害ボランティアのレポートをメールでもらっています。

▼インターネットなら距離をあまり問題にしません。よかつたらどこに住む方でも『おおやまと』編集を手伝うてね！(春)